

# 「小さな勇気で変えたこと」

京都市立正親小学校 六年 春日井 いつき

私はこれまでに、友達と何回もけんかをしたことがあります。最初はちょっとしたけんかでも、『気づけばおたがい』の声が大きくなり、最後には口もきかなくなってしまふこともあります。なんかの後はむねのおくがズンと重くなり、何をしても樂しくありません。それでも、自分から「ぐめん」とはなかなか言えませんでした。ある日、私はまたけんかをしてしまいました。理由は本当に小さなことでした。でも、その時はぐくことができず強い口調で言い返してしまったのです。友達の顔がだんだんおこった表情に変わり、最後には背を向けて行つてしましました。教室には『まわら』空気が流れ、私は何も手をつけられなくなりました。次の日の朝、教室のドアの前で、私は深呼吸をしました。手のひらには汗がにじんで心臓もドキドキしていました。昨日のことを見つめながら、むねがキュッと苦しくなりました。ドアを開けると、友達はいつも通り席にすわり、机に向かってえん筆を走らせていました。その横顔を見たしゅん間足がピタリと止まりました。机の上の消しゴムが小さくゆれて、その音がやけに耳に残りました。「今、声をかけたらどうなるだろ?…」と、何度も頭の中で問いかけました。でも、もし冷たくされたらと思つて足が動きませんでした。教室の『わぬ』きが遠く感じられ、まるで自分がそこそこに取り残されたようなでした。それでも、昨日の帰り道に感じた重い気持ちを思つ出しました。このままじゃ、ずっとむねのモヤモヤをかかえたままだ。つい思つたしゅん間、私は自分をおし出すべく一歩ふみ出しました。

達の耳に届きました。友達は手を止め、少し顔を上げて私を見ました。短いちゃんとその後、ふつと笑って言いました。

「うわあ、うわあ！」

と叫びながら、むねのつかれていたものがすっと消え、体がふわっと軽くなつた気がしました。私は思わず笑い返し、こつものようになに楽しく話し始めました。この出来事を通して、一つ氣が付いたことがあります。それは、なんかをしないことだけが仲の良さではないことです。ときには意見がぶつかり合つてしまつて叱りあう。でも、その後の行動が大切なのです。自分から歩みよる勇気を持って、友達との絆が強くなると感じました。

今、ニュースを見ると世界のあちこちで争いが起きています。国と国、人と人との意見がぶつかり、長い間仲直り出来ていらない国もあります。もしも、相手の話を聞こうとしたり、自分から歩みよつたりする人が少しでも増えれば、きっと争いは少なくなると思います。私が友達と仲直りできたように、自分の問題だけではなく、社会や世界の問題も、一人一人の小さな勇気から変わっていくはずですよ。私はこれからも、その勇気をわすれずに、周りを明るくできるように行動していきたいです。

審査員からのメッセージ

お友達とけんかしてしまってから仲直りのひととを言いだせるまでの気まずい空気感や気持ちの動きをいろんな言葉でみずみずしく描き出すたぐいまれな表現力に驚きました。その出来事を世界中の争いごとにまで思いを巡らせていくところも素晴らしいと思います。大人になればかえってできないかもしれない“自分から歩み寄つてみる勇気”を見習いたいと思いました。



## 関心を持ち続けること

京都市立下京中学校 一年 吉田 匡

僕の住んでる町内は、つながりが強く、集まる行事が多くあります。小学校を対象にした町内イベントだけで年に四回以上あり、マンションに住んでいても、張り紙で知らせがあって、中でもお地蔵盆では、町内の道路に大人が立つて下さって、車に注意しながら水着に着替わなければなりないほど派手な水鉄砲大会をしたりします。そんなおかげで、ほぼ町内の人達の顔は知っているし、毎日挨拶をしたり、話したりします。

『社会を明るくする運動』とは、じつじつとか。小学生の頃にも考えた機会があり、当時の僕は、正直、始めピンとこず、しばらく悩んで、このテーマについて家族で話をしました。いくつも項目が出てきました。笑顔で挨拶をする、相手のことを気づかう、差別をしない、いじめない、認め合うなど、様々な場面を想像しながら考えました。僕は、もつと、規模の大きな動きのことだと捉えていましたが、小さなことから良いのか。と気づいた覚えがあります。そして、僕が、始めてピンとこなかつたのは、僕が、住んでる町内、地域や学校、環境の中で、完璧ではなくても習慣になっていたり、優しい気持ちがあつて、それが当たり前出来ているので、なかなか気づかなかつた。』といふことに、自分で気がつきました。非行や犯罪なども、感じたり接することも無く、自分は恵まれた環境にいるんだと確認したタイミングでした。

中学生になり、この作文で一度向こうの機会が出来て、『犯罪や非行のない地域社会の実現について、に重きを置いて考え直しました。やはりニュースで様々な事件を見ると、その事件や犯人の

背景まで深く理解出来ず、何でこんなことしさつたんやろ。考え方事の捉え方が違う人たちで、分かり合えない気がする。怖い、関わりたくない、バリアを張りたい。正直、そんな思いになりましたが、知らなければ何も解決出来ないので、気持ちがあまり進まないまま、少年院で更生しようとされている方々の動画などを見ていました。

自分が犯したことについて想え、反省しながら、インターネットで出てきた言葉は、信頼関係、人間関係が希薄で頼る人がいなかつた、気付いてもらえないなかつた寂しさ、人から大事にされる、人を大事にするところなどもありが分からなくて。そんな感じが根っこからどんどん出て来る少年達。やはり、お節介でもうつとうしても、人ととの繋がりがどれだけ重要なのかを考えさせられました。

僕の経験を通じて言えること。もう一度自分の町内のことについて、気付いたことは、町内や地域での挨拶や声かけなど、まあ『マリユ二ケーションを取るところ』は、『相手に関心を持つていることの表れなのだとこいつのことです。それも親、家族とは違つ、もう少し外側の、いい距離感からの、『関心』です。

マザー・テレサの言葉の愛の反対は憎しみではなく、『無関心』であるとされる様に、『何もしないこと』が、じわじわと孤立を深めたり、問題や不正に気づいていたとしても、解決されないまま放置されて、事態が悪化する原因になります。そして結果的に不正を助長して、それが大きな塊になって社会全体の不健全さがふくらんでしまいます。

人に、『関心』を持って生活していくだけで明るく、社会は変わることです。小さな『関心』が集まつて、地域の田になり、犯罪や非行を生む手前のブレークになり、防ぐことにつながるのではないかと思います。そう思つので、僕は明日からも会釈して、挨拶して、世間話を町内のおばちゃんと喋つてこづのです。

## 審査員からのメッセージ

「社会を明るくする運動」とは？と疑問に思つたことを放置しないで悩みながら考え続け、家族で話し合つたり、地域の人々との関わりを見つめ直したり、動画を見て勉強したり、学び続けようとする姿に感心しました。地域のつながりがどんどん希薄になる今だからこそ、地域の皆がお互いに関心を持ち、きちんとコミュニケーションをとることが社会を明るくするために本当に大事なことだと考えさせられました。

